

第8回 呉西圏域ビジョン懇談会 会議録

日 時：令和3年2月15日(月) 10時30分～11時30分

場 所：砺波市立砺波図書館

○開会挨拶〔要旨〕

(とやま呉西圏域連携推進協議会 会長)

- ・振り返れば、新型コロナウイルス対策に明け暮れた1年であった。富山県は、呉西圏域も含め何とか抑え込んでいるが、全国的に見れば予断を許さない状況である。新しい生活様式の中で、人間として当たり前の生活を、新しい形で取り戻していくことが求められている。6市の連携事業についても、中止や延期を余儀なくされた。一方、創意工夫を凝らし、オンラインでの開催など、苦勞しながらも事業遂行を図ってきた。2期計画の策定、その後の執行においても、このような経験を活かすことを心掛けていきたい。第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョンについては、前回8月の懇談会で「原案」をお示しし、いただいたご意見を踏まえ、さらに検討を重ねてきた。2期計画で取り組む各連携事業の内容や事業費、2025年の目標値の考え方等について検討を行い、本日ここに、今年度末の策定に向けた最終案を提案する。忌憚のないご意見をいただきながら、最終案の取りまとめ、新年度に向かっての計画の遂行に努めていくので、よろしく願いたい。

○令和2年度 とやま呉西圏域連携事業の実績報告

(事務局による報告)

〈特に質疑等はなかった。〉

○第2期 とやま呉西圏域都市圏ビジョン(案)について

(事務局による説明)

○意見交換

(座長)

- ・第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョンの骨格部分については、前回ご議論いただいたところ。これに具体的な肉付けをして、今回お諮りするものである。ポイントは、指標の設定である。考え方として、新型コロナウイルス感染拡大の影響が見通せない中で目標を立てねばならず、事務局案としては、「コロナ禍からの回復には3年程度掛かるだろう。ただし、その後については伸ばしていく方向で目標値を定めたい。不透明な部分も多々あるため、目標値については、柔軟に見直すという形で設定したい。」とのことであった。まずは基本目標について、ご意見を伺いたい。

(委員)

- ・コロナ禍からの回復については、全体的な議論ではあるが、早期回復である「V字回復」や、少し回復が遅れる「L字回復」のようにアルファベットの形に合わせて、「K字回復」といった議論がなされている。即ち、回復が早いところと遅いところの格差がこれまで以上に拡大していき、それが先行きを見通せない要因の一つにもなっている。企業の業績を見ても、IT需要のほか、巣ごもり需要、テレワーク需要を取り込んでいる業種は比較的好調だが、一方で赤字の業種もあり、一様ではない。このような中、個々をしっかりと見ていくことが必要である。地域の産業構造や各部門の回復状況を踏まえれば、今回提示された事務局案の考え方は、妥当ではないかと考える。

(座長)

- ・「K字回復」という言葉で整理していただいた。業種によって違う形で業績が出てきていることが、今回のコロナ禍の特徴だと思う。その上で、ひとまず原状回復を目指しながら、さらに計画最終年度では現状よりも伸ばすという方向については、適切ではないかのご意見だった。

(委員)

- ・言われたとおりであると思う。業種によっては、大変ダメージの小さいところと大きいところとのバラつきが出ている。昨年、高岡商工会議所への相談件数は増加し、2,000件余りであった。多くが新型コロナウイルス関係の相談で、支援金や補助金を申請について色々な形でアドバイスをしたおかげで、ほとんどは申請が通った。電子申請もあったが、適切なアドバイスをしながら対応できた。「3年かけて回復」との考え方については、業種によってはバラつきがあるため、しっかり支援をしていかななくてはならない。相談者の中にも、「需要が無くなったわけではなく、変わっただけ。業態を変化させ、変更点を掴みながら、何とか軌道に乗せよう」といった積極的に回復させようとするやる気がある方もおり、ぜひそういった形で支援をしていきたい。

(座長)

- ・コロナ禍での影響というのは、バラつきがあるとはいえ、大きなダメージを受けているところは確かにある。それをどのようにして圏域として支援していくか。今ほどの「需要が無くなったわけではなく、変化した」と捉えている事業者がいることは、非常に大事である。コロナ禍からの回復過程では、コロナ以前の様式に全くその通りに戻ることはありえないと思われる。量的な面では回復するかもしれないが、質的な面では自ずと違ったものになっているはずであり、目標設定においても、それを十分踏まえることが大事である。

(委員)

- ・提案内容については概ね賛成だが、懸念事項が2点ある。まず、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」という部分に関連し、今年の豪雪の折、ある市境を

跨ぐと突然、除雪が不十分で悪路になっていた。本当にこのような地域で、UターンやIターンを促進できるのか。雪国における広域連携で、住民サービスの向上を図ってもらいたい。もう1点は、人口問題である。コロナ禍において、全国の出生数が100万人を割っている。今年はさらに減少することが見込まれる。新聞の結婚欄、出生欄を見ていると寂しい。コロナ禍で結婚が減っている。結婚が減るということは出生数も減る。圏域としての知恵の出どころである。

(委員)

- ・資料No.3の3ページの基本目標のうち、「都市機能の集積」では、(第1期当初の2015年の)滞在人口率が1.02に対し、目標値が1.04だった。実際は、第2期の基準値でもある2019年の実績としては0.99だった。2019年は新型コロナウイルスの影響はまだ受けていないにもかかわらず、1.02(2015年)から0.99(2019年)になっている。また、「生活関連機能サービスの向上」では、(第1期当初の2015年の)社会動態が-394人に対し、目標値±0に設定していた。これが、第2期の基準値でもある2019年の実績としては-509人だった。酷な言い方かもしれないが、第1期でやった取組が果たして成功しているのか、検証しなければならないポイントである。そこへ今、コロナ禍だからといって、緩やかに回復させることを目標として考えているわけだが、果たしてそれでいいのかと疑問に思う。第1期の目標値に達成しなかった根本的な原因をどのように捉えているのか明らかにした方がよいのではないか。

(事務局)

- ・滞在人口率については、第1期では1.02を1.04に引き上げる目標を掲げていたが、年々低下している。低下傾向を可能な限り維持し、第1期の基準年(2015年)の数値を目指して頑張っていきたいという考え方である。また、社会動態については、第1期の2019年の実績が-509人で±0からは程遠い状況であるが、年ごとの推移を見ると毎年変動しており、右肩下がりや右肩上がりといった傾向はなく、増減幅についても年によってバラつきがある。2020年以降、新型コロナウイルスの影響を受けるが、地方へと人が流れる受け皿として、高い目標だが±0を目指していきたい。(第1期の取組が)上手くいったかどうかという議論あるかと思うが、6市がビジョンで取り組む内容は、6市が共通してできることは一緒になって取り組むこととしている。一方で、ベースには各市それぞれの取組もある。単独市では解決できない部分について、力を合わせるによりスケールメリットなどを生み出す中で、さらに上積みしていこうという形をとっている。第1期の反省を含め、第2期ではさらに創意工夫を凝らし、少しでも圏域の活性化に資するように取り組んでいきたい。

(座長)

- ・圏域としての視点を持ちながら、第1期での結果について分析していただきたいと思う。目標値としては、例えば、社会動態±0を掲げることは正しいと思うが、

そのために、第1期ではこういうことに取り組んだ。そして第2期ではこういうことに改めて取り組みたいというところが重要である。個々の市の取組もあるが、それを統合した圏域の取組として、しっかり取り組まないといけない。また、先ほどから話題になっている「コロナ禍での不確定要素」も重々分かるのだが、その不確定要素の中に隠れて、構造的な変化を見落とさないかが懸念される。これは、委員各位の肌感覚での捉え方もあるだろうし、行政でしっかりデータを取ることもあるだろう。現状を捉える点には注力してもらいたい。それができないと、この目標について、この場で時間をかけて議論することの意味を問われることになる。こういう意見が出たということ踏まえて、取り組んでもらいたい。

(委員)

- ・「6市が単独でできることは、各市それぞれで取り組む。各市でできないことは連携して取り組む」とのコンセプトならば、前回8月にも申し上げたが、シナジー効果を生み出さないと全く意味がない。シナジーはどうしたら生まれるかと言えば、まず、交流・往来するというベースがあって、その上で時間効率、時間をいかに短縮していくかということによって生まれる。まず、6市の移動について、抜本的に手を加えるべきだと考える。例えば、医療では高岡市と砺波市が中核となって整備しようという計画がある。では、射水市や氷見市の住民がその中核的医療機関を受診しようと公共交通機関を使って移動するとしたら、一体何時間掛かるのか。その移動する手段そのものが手間になってしまっているようでは、実はその上での連携というものは起こりえない。ビジョン(案)P33の「広域的公共交通網の構築」という題目は、最優先で取り組むべきことだと思う。さらには、これだけモビリティが進化している呉西エリアで、タクシーの活用は大いに前向きに取り組んでいくべきだと思う。富山県のタクシーは料金的にも利用しづらいところがあることから、そこは発想を変えて、移動しやすいということにまず着目すればいいのではないかと考える。

(座長)

- ・シナジー効果についてご発言いただいた。圏域で何か取り組むには、そういうところが大事であり、正解だと思う。第2期計画の中身あるいはそれを踏まえて将来の取組という点についてご意見をいただいているが、この第2期の目標値についての考え方は、今ほどの様々な意見について踏まえるべき点はあるとして、基本的な方向性としては、この内容で設定をさせていただいてよいか。

〈異議なし〉

(座長)

- ・それでは、基本的な方向性については、資料にあるような形で設定をさせていただく。その上で、今ほどいただいたご意見等も十分に勘案して、柔軟に見直ししていかなければならないし、しっかりした検証も必要だと思う。

- ・それでは、都市圏ビジョン全体について、ご意見があればお聞かせいただきたい。ビジョンの内容は多岐にわたっているので、それぞれの立場あるいは関係する仕事に関連する事項についてもご発言をいただきたい。大学の役割という視点ではどうか。

(委員)

- ・大学と役割としては、若い力をどう活用するかというのが非常に大切だと考えており、6市のそれぞれのところに大学から生徒を送り出し、色々なことをさせていただいている。射水市からの「小杉駅周辺地区の再開発や太閤山地区の再開発に当たり、学生の意見が欲しい」といった依頼など、各市にお世話になっている。ぜひ大学を活用していただきたい。また、令和3年度、富山県立大にDX教育研究センター（仮称）を新たに設立する。IoTやAI、5Gなど、次世代技術を取り入れたセンターになる。ぜひご活用いただきたい。それから、お願いだが、大学生を見ていると、経済が停滞しているため、なかなかバイトができない、外にも出られないという状況である。約1年経過し、様々なケアが必要になれば、地域の方々にも様々なことをお願いしなければならないことになろうかと思う。実態はまだ分からないが、大学の若い学生の力を活用していただきたい。大学側も地域の発展に寄与したいと考えており、よろしくお願ひしたい。

(座長)

- ・今回の計画でも、大学との連携が大事な点になろうかと思う。大学側でできることは精一杯取り組むので、ぜひお声掛けいただきたい。
- ・今回のコロナ禍で、観光分野が大きな影響を受けているのかと想像するが、その当たりのところはいかがか。

(委員)

- ・本当に大打撃を受けている。令和3年度以降のウィズコロナ時代とどう向き合っていくかを議論しており、いくつかのキーワードを挙げている。「地元観光（マイクロツーリズム）」として、地元近隣の方々に観光していただくというマーケットをどうやって掘り起こしていくかということが一つある。また、ウィズコロナ時代に三密を避けながらどのようなアクティビティを提供できるかといった「新たな観光スタイル」も議論している。もう一つ大事なことが、「高付加価値化」である。飲食や観光では、定員を半分程度に抑えなければならない。そうになると、自ずと客単価を上げないと収益を確保できない。今までと違う見え方や見せ方を工夫しないと、地元近隣の方々が、行ってみよう、泊ってみようかというところにはなかなかいかないと思うので、ウィズコロナ時代と向き合っていく上では、このような点を意識しなければならないと思っている。

(座長)

- ・「地元観光」という視点で、丁寧な情報提供や訴求を求められるといった点は、圏域として取り組むことが必要だと思われる。

(座長)

- ・本日、第2期都市圏ビジョン(案)を示した。前回(原案)を示し、今回(案)を示したが、懇談会としてこの(案)について承認するという事によろしいか。

〈異議なし〉

(座長)

- ・ご異議がないようなので、懇談会としてこの(案)を承認することとする。今後、策定に向けて、最終的な調整及び確認事項等が必要となる。その際には、座長一任という形をとらせていただきたい。また本日、貴重なご意見をいただいた。事務局においては、今後の計画を進めるに当たって踏まえた形にしてもらいたい。

○閉会挨拶〔要旨〕

(とやま呉西圏域連携推進協議会 副会長)

- ・今ほど、とやま呉西圏域都市圏ビジョン(案)についてご意見を伺った。シナジー効果の話もあったが、もう一つ重要なことは、シームレスな行政サービスではないかと思う。そういった意味では、いくつかの取組で前例があり、市民の方には既に当たり前になっているものもある。そういったものを、それぞれの自治体にとって、また圏域にとってメリットとして受けられるよう、令和3年4月からスタートする第2期も、しっかりと6市が協力して取り組んでいきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

(終了 11:30)